

# 産地戦略

実施期間 令和4～5年度

実施主体  
都道府県  
対象地域  
対象品目

能登やさい出荷協議会  
石川県  
穴水町、能登町、輪島市  
クリ



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農業の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

石川県のクリは国営農地開発事業で造成された能登北部の山間部で栽培（R4:45ha）されており、本地域は赤土と呼ばれる重粘土質の土壌が広く分布している。赤土は腐植（有機物）が極めて少なく、植物に対する養分供給能力などの化学性と、根張りのし易さなどの物理性が未熟であるため、クリの生産性が低く、離農の一因となっている。

本地域のクリ生産を将来にわたって持続可能とするため、化学肥料に過度に依存するのではなく、有機質肥料の施用など継続的な土づくりを進め、地力の高いクリ産地を目指す。また、産地化して50年近く経過し、担い手の高齢化による労働生産性の低下が問題となっていることから、後継者確保の取り組みを進めるとともに、低樹高栽培などの省力的な栽培技術を積極的に導入する。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
生育ステージ	発芽期		開花期	球果（きゅうか）肥大期		収穫期				休眠期			
作業（技術）		・除草（乗用+刈払い）		・夏季せん定 ・除草（乗用+刈払い） ・実肥（化学肥料） ・防除	・除草（乗用+刈払い） ・防除	・収穫 ・礼肥（化学肥料）				・元肥（化肥） ・冬季せん定 ・せん定後の焼却等による処分			

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
生育ステージ	発芽期		開花期	球果（きゅうか）肥大期		収穫期				休眠期			
作業（技術）		・除草（乗用のみ）		・夏季せん定 ・除草（乗用のみ） ・実肥（鶏ふん堆肥） ・防除	・除草（乗用のみ） ・防除	・収穫 ・礼肥（鶏ふん堆肥）				・元肥（化肥） ・冬季せん定 ・せん定枝のチップ化、施用			

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	45	▶ 45	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 22.5	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 22.5	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 22.5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料のみの施肥体系	鶏ふん堆肥による追肥体系	化学肥料の使用量の低減
省力	乗用草刈り機による園内除草と、刈払い機による樹幹周囲除草	木材破砕機によるせん定枝のチップ化と、樹幹周囲へのチップマルチ	刈払い機による樹幹周囲除草の省略

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料由来の窒素施用量の割合	<b>10</b>	▶ <b>7</b>	化学肥料由来の窒素施用量を現状から3割減
省力	作業工程	<b>2</b>	▶ <b>1</b>	2工程 → 1工程
			▶	
			▶	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する  
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

生産者部会主催の栽培講習会や研修会で、本事業で実証した技術の周知を行い、普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	全農いしかわ	JAのと(旧JAおおぞら)	生産者部会(クワ部会)	石川県
役割	事業の手続き	農業者との連絡調整	技術実証	技術指導

その他